

## 第5章 総括

### 第1節 平安時代の遺構

今回の調査では平安時代の竪穴建物跡1棟、溝跡3条、土坑1基、掘立柱建物跡1棟等の遺構を検出した。竪穴建物跡は付随施設を伴う特徴を持っている。

#### 1 掘立柱建物と外周溝が付随する竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡は、竪穴に掘立柱建物と竪穴を囲む外周溝が付随している。周辺遺跡では下石川平野遺跡で1棟（農道30号第9号竪穴建物跡）、熊沢溜池遺跡で2棟（第15号竪穴建物跡・第18号竪穴建物跡）、中平遺跡では16棟（記載は※1に記す）の掘立柱建物と竪穴を囲む外周溝が付随する建物跡が確認されている。

竪穴に掘立柱建物が付随する建物跡は下石川平野遺跡で6棟（農道23号第3号a竪穴住居跡・農道30号第8号竪穴建物跡・農道31号第2号a竪穴建物跡・農道31号第13号a竪穴建物跡・農道31号第13号b竪穴建物跡・農道31号第13号c竪穴建物跡）、上野遺跡で1棟（第21号竪穴建物跡）、熊沢溜池遺跡で5棟（第1号竪穴建物跡・第17号竪穴建物跡・第19号竪穴建物跡・第21号竪穴建物跡・第22号竪穴建物跡）、中平遺跡では9棟（農道27号第1号建物跡・農道25号第4号建物跡・農道10号第4号建物跡（新）・農道10号第5号建物跡・農道10号第7号建物跡・農道6号第2号竪穴住居跡（ピット列）・農道30号第1号建物跡・農道27号第2号建物跡・農道10号第2号a建物跡（古））確認されている。

竪穴に外周溝が付随する建物跡は下石川平野遺跡で6棟（農道24号E区第1号竪穴住居跡・農道24号E区第2号竪穴住居跡・農道30号第7号竪穴建物跡・農道31号第22号竪穴建物跡・農道31号第24号竪穴建物跡・農道31号第26号竪穴建物跡）、旭（2）遺跡で1棟（農道37号第1号竪穴建物跡）、寺屋敷平遺跡で2棟（第4号竪穴住居跡・第10号竪穴住居跡）、熊沢溜池遺跡で3棟（第8号竪穴建物跡・第23号竪穴建物跡・第26号竪穴建物跡）、中平遺跡では5棟（農道29号第3号建物跡・農道8号第1号建物跡（古）・農道8号第1号建物跡（新）・農道2号第2号建物跡（古）・農道2号第2号建物跡（新））確認されている。

本遺跡から各遺跡までの直線距離は表1の通り、下石川平野遺跡が2.3km、旭（2）遺跡が1.5km、寺屋敷平遺跡が1.2km、上野遺跡が1.0km、熊沢溜池遺跡が0.7km、中平遺跡が0.7kmと、それほど離れている訳でもなく、その他の遺跡間の距離も数kmから数百m程度である。特徴的な構造の竪穴建物跡でも重複例が確認できる。中平遺跡では竪穴に掘立柱建物が付随する建物跡（農道10号第7号建物跡）が、竪穴に掘立柱建物と外周溝が付随する建物跡（農道10号第6号建物跡）よりも古いという結果が得られている。竪穴建物跡も同じ遺跡内での消長や変遷を行いつつ、本遺跡を含めた周辺遺跡とも互に関係性を持ちながら人々と共に存在していた可能性が高い。今後、10世紀前半に降下した2つの火山灰が広範囲に及ぼした影響、出土遺物から見える各遺跡間の相違点や類似点を詳細に比較検討することにより浪岡地域の平安時代の様相が、より明らかになってくるものと思われる。

#### 2 屈曲部を有する溝跡

第1号溝跡と第3号溝跡では、共に2箇所の屈曲部が確認されている。屈曲部と屈曲部の間が2m程

の直線となっている特徴も2遺構に共通する。第1号溝跡は東西軸を、第3号溝跡は南北軸を基調として造られており、区画する区域には違いがあったものと思われるが、屈曲部の形態や規模は概ね一致している。直線部分は2遺構共、北西～南東方向に対し直交するように造られている特徴も似ている。溝が両方向から掘られた結果、合流付近で屈曲が生じたとも考えられるが、何らかの機能を有していた可能性も否定できない。

### 3 掘方底面に工具による掘削痕を有する遺構

第1号溝跡と第3号溝跡の掘方底面から金属工具によると思われる掘削痕が多数検出された。掘削痕の形状は三日月状や半円状を呈し、弧の向きの検出状況からは掘削方向が推定できる。また、第1号溝跡では埋没過程での降下火山灰の堆積状況が確認でき、廃絶時期が推定できる。

掘方底面に掘削痕を有する遺構が検出された周辺遺跡とその種別を以下に示す。

○野尻(1)遺跡第306号建物跡外周溝掘方底面(掘削痕の形状：三日月状。埋没過程で白頭山-苦小牧テフラが堆積。)

○中平遺跡農道6号第5号竪穴住居跡掘方底面(掘削痕の形状：半円状、三日月状で半円状が多数を占める※2。)

○下石川平野遺跡農道27号第7号溝跡掘方底面(掘削痕の形状：三日月状。埋没過程で白頭山-苦小牧テフラが堆積。第8号溝跡と重複し、第7号溝跡が新しい。)

○下石川平野遺跡農道27号第8号溝跡掘方底面(掘削痕の形状：三日月状。埋没過程で白頭山-苦小牧テフラが堆積。第7号溝跡と重複し、第8号溝跡が古い。)

○下石川平野遺跡配水管16号第9号溝跡掘方底面(掘削痕の形状：三日月状。)

○郷山前村元遺跡第1号溝跡掘方底面(掘削痕の形状：半円状、三日月状※3。部分的に検出。第3号円形周溝(埋没過程で白頭山-苦小牧テフラがレンズ状に堆積)より新しい。)

本遺跡周辺では上記4遺跡6遺構の掘方底面から掘削痕が検出されている。掘削痕の形状は6遺構全て、概ね三日月状や半円状を呈している。加えられた力の強弱や角度の違いによると思われる大きさのばらつきは、どの遺構でも見られるが、それらの形状も概ね似ていることから同じような金属工具を使って掘削していた可能性が高い。

野尻(1)遺跡第306号建物跡外周溝例と下石川平野遺跡農道27号第7号溝跡例は本遺跡の第1号溝跡同様、白頭山-苦小牧テフラが埋没過程で堆積しているという類似点が認められる。また、下石川平野遺跡農道27号第8号溝跡も、同第7号溝跡と新旧関係にはあるものの火山灰の堆積状況が比較的似ている。同じく掘削痕を有する溝跡と重複する郷山前村元遺跡第3号円形周溝も埋没過程で白頭山-苦小牧テフラが堆積している。下層に十和田a火山灰の堆積が認められないことから、これらの遺構は、それほど時間差がなく構築・使用・廃絶が行われた可能性が高いものと思われる。野尻(1)遺跡、下石川平野遺跡、郷山前村元遺跡、中平遺跡は本遺跡から直線距離で、それぞれ3.2km、2.3km、1.4km、0.7km離れており、比較的近距离に位置していることが図1や表1からも確認できる。竪穴建物跡以外の遺構も各集落間で関係性を持ちながら存在していたものと思われる。

※1 農道10号第1号a建物跡・農道10号第1号b建物跡・農道2号第5号建物跡・農道2号第4号建物跡・農道10号第3号A建物跡(古)・農道10号第3号B建物跡(新)・農道10号第3号C建物跡・農道1号第2号建物跡(古)・農道1号第2号建物跡(新)・農道8号第2号建物跡・農道11号第5号竪穴住居跡・農道2号第6号建物跡・農道2号第1号建物

跡・農道10号第6号建物跡・農道9号第5号建物跡・農道11号第1号建物跡 ※2・3 事実記載と写真図版から推定。

## 第2節 各時代の土地利用

### 1 縄文時代

調査区から散漫に縄文時代早～前期、後期の土器片や石器が出土している。遺物に伴う遺構は検出していないことから、縄文時代における土地利用度は比較的低かったものと思われ、今回の調査区は周辺集落の縁辺や狩猟・採集域の周辺部であった可能性が考えられる。出土した遺物は当時の人々の何らかの行動に起因するものと思われる。

### 2 古代

古代、特に平安時代は周辺地域も含め人々の行動が活発になった時期で、調査区からは竪穴建物跡1棟、溝跡3条、土坑1基、掘立柱建物跡1棟を含む柱穴・ピット7基を検出し、遺構内外から土師器、須恵器、鉄滓が出土している。検出した溝跡2条(第1号溝跡・第3号溝跡)を境にして、その他の遺構は一方(第1号溝跡からは南西側、第3号溝跡からは西側)からのみ検出している。古代の溝跡はこれまでの類例から、排水施設や集落の縁辺に造られた境界としての機能が考えられており、本遺跡では遺構の検出状況から後者の意味合いが強いものと考えられる。溝跡2条では新旧関係が推定され、平安時代においては少なくとも2時期の集落変遷があり、その集落の主体は古い第3号溝跡では同遺構を境に西方域に、新しい第1号溝跡では同遺構を境に南西方域にあったものと考えられる。また、鉄滓(椀形鍛冶滓)が1点出土している。調査区内や竪穴建物跡内からは関連する炉跡・羽口・鉄製品等は出土していないが、今回見つかった竪穴建物跡を含む集落内では生業の一つとして鍛冶が行われていた可能性が考えられる。

### 3 近世

調査区から陶磁器片が5点出土しているが、それらに伴うと考えられる遺構は検出されていない。本遺跡の約1.0km南西側を江戸時代に整備されたと考えられる「下之切通り(小泊道)」が南北方向に通っており、江戸末期、嘉永五年(1852)以降に作られ、現在、弘前市立博物館に所蔵されている『郷山前村漆山絵図※』には街道沿いや村中に至る道沿いに「漆木山」と漆が栽培されていたことが記載されている。近世郷山前村で暮らしていた人々の住居は「下之切通り」から西側に2本程分かれた道沿いと、それを東西方向に横切る道沿いに造られていたことが絵図からうかがえる。本遺跡が立地する一帯にも当時弘前藩から栽培が推奨されていた漆の栽培地が広がっていた可能性も考えられるが、絵図に描かれた現在の熊沢溜池と考えられる周辺には、道路を挟み北隣の近世吉野田村に所在する「漆木仕立山」以外に記載は見当たらない。「下之切通り」から更に東に離れた今回の調査区周辺は、まだ開発が及ばない区域、或いは開墾され畑・苗代・入会地等が造られていた可能性も考えられる。また、周辺に発達した小谷を堰き止めた溜池の上・下域には水田が作られていた可能性も考えられる。

### 4 近・現代

現在、調査区を含む一帯はりんご栽培を主とした果樹園として利用されている(図2・図版1下)。りんご園ではこれまでに新品種への更新に伴う苗木の植え替えや矮化等、栽培方法の変更も幾度か行われており、調査区でもそれらに関係すると考えられる痕跡が確認されている。今回の調査区は同一の園地を分断するように設定されている。両隣に現存する果樹の配置からも、それらは東西及び南北方向にほ

ば等間隔で整然と並んでおり、りんごの植栽や支柱が残る矮化栽培の痕跡だということが判明した。園地の持ち主や周辺地権者からの情報によると、調査区を含む周辺では、りんご園が造られる以前、戦後の農地解放までは赤松が植林されていたというが、それらに関連する痕跡は明確には分からなかった。しかし、北東部を中心として調査区内から多数検出された、りんご植栽痕以外の痕跡が、それらに該当する可能性がある。また、本遺跡が立地する段丘の東に形成された小谷では平成17年まで水田耕作が行われていたが、その後は現在まで耕作放棄地となっていることも判明した。

以上のことから、今回の調査区の平坦部については近・現代にかけて針葉樹の植林や果樹栽培に利用され、小谷部分については近世には行われていた可能性もある水田耕作に利用されていたものと思われる。また、第1号竪穴建物跡の竪穴部分のほとんどが削平されていた状況から、調査区周辺は植林や果樹園造成に伴い、掘削を含む土地改変が行われた可能性が高いことが推定できる。縄文時代や平安時代の地形は少なからず現在とは異なっていた可能性が高く、欠失した遺構や遺物も多数存在していたものと思われる。

※『浪岡町史』別巻1 P14、『上野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第486集 P107参照

#### 引用・参考文献

浪岡町 2000『浪岡町史』第1巻

浪岡町 2002『浪岡町史』別巻1

青森県教育委員会 1984『下之切通り(小泊道)』青森県「歴史の道」調査報告書

青森県教育委員会 1980『長七谷地貝塚』青森県埋蔵文化財調査報告書 第57集

青森県教育委員会 1987『山本遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第105集

青森県教育委員会 1994『山元(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第159集

青森県教育委員会 1995『山元(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第171集

青森県教育委員会 1995『水木館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第173集

青森県教育委員会 1996『野尻(2)Ⅱ・(3)・(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第186集

青森県教育委員会 1997『高屋敷館遺跡発掘調査概報』青森県埋蔵文化財調査報告書 第206集

青森県教育委員会 1998『高屋敷館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第243集

青森県教育委員会 2001『桜ヶ峰(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第299集

青森県教育委員会 2003『野尻(1)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第351集

青森県教育委員会 2003『宮元遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第359集

青森県教育委員会 2004『野尻(1)遺跡Ⅵ・野尻(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第366集

青森県教育委員会 2004『宮元遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第380集

青森県教育委員会 2005『高屋敷館遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第393集

青森県教育委員会 2005『山元(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第395集

青森県教育委員会 2006『野尻(3)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第414集

青森県教育委員会 2007『赤平(2)遺跡・赤平(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第438集

青森県教育委員会 2008『上野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第445集

青森県教育委員会 2008『寺屋敷平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第450集



- 青森県教育委員会 2008『荒屋敷久保（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第453集
- 青森県教育委員会 2009『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第474集
- 青森県教育委員会 2010『上野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第486集
- 青森県教育委員会 2010『中平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第490集
- 青森県教育委員会 2012『中平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第518集
- 青森県教育委員会 2015『下石川平野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第556集
- 青森県教育委員会 2016『下石川平野遺跡Ⅱ・旭（1）遺跡・旭（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第569集
- 青森県教育委員会 2016『下石川平野遺跡Ⅲ・浪岡蛭沢遺跡・旭（2）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 第583集
- 青森県教育委員会 2018『熊沢溜池遺跡・上野遺跡Ⅲ・郷山前村元遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第591集
- 青森県教育委員会 2021『青森県遺跡詳細分布調査報告書33』青森県埋蔵文化財調査報告書 第624集
- 五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 五所川原市教育委員会 2005『K Y 1号窯跡「五所川原須恵器窯跡」における初現期窯跡の発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第26集
- 五所川原市教育委員会 2013『十三盛遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第33集
- 浪岡町教育委員会 1990『大沼遺跡』浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 第4集
- 北日本須恵器生産・流通研究会 2007『五所川原産須恵器の年代と流通の実態』第2回「北日本須恵器生産・流通研究会」資料集
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念

表2 縄文土器観察表

図	番号	出土地点・グリッド	層位	器種	部位	時期・型式	備考
15	1	SD01	堆積土	深鉢	口縁部	早期後葉：赤御堂	口唇部：LR 押圧、外：LR 斜（横回転）胎土に繊維混入
15	2	—	第Ⅰ層	深鉢	口縁部	早期後葉：赤御堂	口唇部：LR 押圧、外：LR 斜（横回転）胎土に海綿骨針混入
15	3	—	第Ⅲ層	深鉢	口縁部	早期後葉：赤御堂	口唇部：LR 押圧、外：LR 斜（横回転）胎土に繊維混入
15	4	G-18	攪乱	深鉢	胴部	早期後葉：赤御堂	外：LR 斜（横回転）胎土に繊維混入
15	5	No.241L 付近	第Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	胴部	早期後葉：赤御堂	外：LR 斜（横回転）胎土に海綿骨針混入
15	6	—	第Ⅰ層	深鉢	胴部	早期後葉：赤御堂	外：LR 斜（横回転）胎土に海綿骨針混入
15	7	試掘 T 9	埋戻土	深鉢	胴部	早期末～前期初頭	外：LR 斜（縦回転）胎土に長石粒・黒色粒混入
15	8	試掘 T 9	埋戻土	深鉢	胴部	早期末～前期初頭	外：LR 斜（縦回転）胎土に長石粒・橙色粒混入
15	9	SD01	土層 f-f' 3 層	深鉢	胴部	早期末～前期初頭	外：LR 斜 胎土に繊維混入
15	10	—	第Ⅰ層	深鉢	胴部	早期末～前期初頭	外：LR 斜 胎土に長石粒混入
15	11	G-19	攪乱	深鉢	胴部	早期末～前期初頭	外：LR 斜 胎土に多量の橙色粒・繊維混入
15	12	—	第Ⅰ層	深鉢	胴部	前期初頭	外：LR、内：ミガキ 胎土に長石粒・繊維混入
15	13	SP09	堆積土	鉢	口縁～胴部	後期前葉：十腰内Ⅰ	頸部：1 条横位沈線、胴部：円形沈線・長方形沈線
15	14	G-16	攪乱	鉢	頸～胴部	後期前葉：十腰内Ⅰ	頸部：1 条横位沈線、肩部：3 条横位沈線、胴部：数条縦位沈線
15	15	G-16	攪乱	深鉢	胴部	後期前葉：十腰内Ⅰ	胴部：2 条横位沈線

表3 石器観察表

図	番号	出土地点・グリッド	層位	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
16	1	—	攪乱	剥片石器	剥片	3.2	3.4	1.0	7.0	珪質頁岩	
16	2	—	第Ⅲ層	剥片石器	剥片	4.6	4.5	1.2	16.8	珪質頁岩	一部自然面
16	3	—	攪乱	礫石器	磨石	8.4	8.1	2.7	290.4	安山岩	1 側面使用
16	4	P-14	第Ⅰ層	礫石器	三角柱状磨石	(7.6)	6.0	5.3	(276.2)	安山岩	3 稜線使用

表4 土師器・須恵器・陶磁器観察表

図	番号	出土地点・グリッド	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面	内面	備考
17	1	SI01	貼床内	土師器	甕	胴部	—	—	—	—	ヘラナデ	
17	2	SD01	堆積土	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	
17	3	SD01	堆積土	土師器	甕	胴部	—	—	—	—	—	
17	4	SD01	堆積土	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
17	5	SD03	検出面	土師器	坏	口縁部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	内面黒色処理→ミガキ
17	6	SD03	検出面	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	—	
17	7	SD03	堆積土	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
17	8	SP25	検出面	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
17	9	H-17	攪乱	土師器	坏	口縁部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	
17	10	—	第Ⅰ層	土師器	坏	口縁部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	
17	11	—	攪乱	土師器	坏	体～底部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	底部調整不明瞭・糸切り痕?
17	12	E-17	攪乱	土師器	甕	口縁部	—	—	—	ナデ	—	
17	13	E-18	攪乱	土師器	甕	頸～胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	
17	14	I-17	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
17	15	E-17	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
18	1	—	攪乱	土師器	塼	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
18	2	F-20	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	—	
18	3	—	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	—	
18	4	—	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	—	
18	5	—	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	
18	6	—	第Ⅰ層	土師器	甕	胴部	—	—	—	—	—	
18	7	—	第Ⅰ層	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	
18	8	E-17	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	
18	9	—	攪乱	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	
18	10	—	第Ⅰ層	土師器	甕	胴部	—	—	—	ヘラケズリ	—	
18	11	E-18	攪乱	土師器	甕	胴～底部	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	底部圧痕
18	12	G-18	攪乱	土師器	甕	胴～底部	—	—	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	底部糸切り痕
図	番号	出土地点・グリッド	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面	内面	備考
19	1	E-17	攪乱	須恵器	坏	口縁部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	
19	2	E-17	攪乱	須恵器	坏	口縁部	—	—	—	ロクロ	ロクロ	外面火襷痕
19	3	E-18	攪乱	須恵器	甕	肩部	—	—	—	格子叩き目	当て具痕	外面自然釉
19	4	—	表採	須恵器	甕	胴部	—	—	—	並行叩き目	—	外面自然釉
図	番号	出土地点・グリッド	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面	内面	備考
19	6	—	第Ⅰ層	陶磁器	碗	口縁～体部	—	—	—	二重網目文様	一重網目文様	
19	7	—	第Ⅰ層	陶磁器	碗	体部	—	—	—	草花文様	—	
19	8	E-18	攪乱	陶磁器	碗	体部	—	—	—	草花文様	—	
19	9	D-18	第Ⅰ層	陶磁器	碗	体部	—	—	—	—	—	

表5 鉄滓観察表

図	番号	出土地点・グリッド	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
19	5	E-18	攪乱	碗形鍛冶滓	(5.4)	(5.5)	(2.4)	(56.0)	磁着度 6・メタル度 4～5





遺跡上空から望む津軽平野と岩木山



調査区と周辺の現況

図版1 航空写真